

2022年11月9日(水)

老球の細道700号

## 名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑨

会津バスケットボール協会 室井 富仁

### 【フラトン大学での試合観戦】

「亭主元気でロスがいい」ツアー最終日となった。最後の研修地はロスから車で約30分、ディズニーランドから15分に位置するフラトン市「カリフォルニア州立フラントン大学」。ここで前年NCAAの優勝校「ネバダ・ラスベガス大学 (UNLV)」とフラトン大学の試合を観戦する。当時私はどちらかと言うとNBAのゲーム観戦よりNCAAの方に興味関心を持っていたので、このゲームはツアーの中でも最も楽しみなツールであった。

ネバダ・ラスベガス大学のヘッドコーチは「ジェリー・ターカニアン」。私たちの世代やそのちょっと下の世代のNCAAオタクは皆知っている超有名コーチである。彼の指導ビデオ『プレッシャーマンツアーマンデイフェンス』は私のバイブルだった。彼のニックネームは「シャーク(鮫)」。頭はスキンヘッドで、眼は鮫のように鋭く、じろっと睨まれると身動きが取れなくなるほどの凄みを持つ。アメリカでは英雄である。フランク・シナトラなどの芸能人に多くのファンがおり、マフィアにも熱烈なファンがいるという。

怖いエピソードがある。彼がUNLVをなかなかNCAAチャンピオンにさせられなかった時、コーチ退任運動が起こった。それを阻止するために、彼のファンであるマフィアの親分がそのコーチ退任運動の中心人物を暗殺するという事件があったという。そのくらい凄くて怖いコーチである。

ターカニアンのベンチワークの癖も有名である。バスタオルを口にくわえて采配をふるうのである。タオルには水分が含まれており、時折水分補給もするという。現在のコーチのようにペットボトルなどという生易しい手段ではない。ターカニアンだからこそ、鮫コーチだからこそ絵になるのである。私もかつて真似したことがあるが、喉につかえて「オエー」となりそうだったのでやめた。マネするところはその場ではないんだと自分を恥じた。

今回のツアーの目的に、ターカニアンと会いツーショット写真を撮ることもあった。ゲームはUNLVの勝利だったが、昨年のような強さはあまり感じられなかった。ゲーム終了後早速現地の案内人に面会の仲立ちをお願いした。そしたらVIPなので無理だと言う返事が返ってきたので直接控室に乗り込もうとした。途中ガードマンがいたので、私は「日本から来た新聞記者だ。中へ入れてほしい」と片言の英語で嘘をついてお願いした。ガードマンに「証明書を見せろ」と言われ、その場で立ち往生していた。

そしたらその時偶然にもターカニアンが控室から出てきたのである。米国まで来たからにはあきらめることはできない。強引にターカニアンのそばに行き「How are you? I am a Japanese basketball coach. Take a picture please.」。彼は快くOKしてくれた。この時ターカニアンと一緒に写真に写ったのが大宮北高校の佐藤光壺先生だった。その写真は拡大して今でも私の部屋に飾ってある。孫はターカニアンを私と勘違いしているが。〈続く〉